

平成17年度 事業報告

財団法人 日本セーリング連盟

<全般>

(1) 会員登録管理システムのIT化

事業初年度にあたった17年は、やや準備不足や不慣れな点もありメンバーの皆様にはご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。

2年目に入った当年度はシステム変更等で、従来に比較し格段使い勝っても改良され、お役にたつよういたしました。

(2) 全日本選手権大会への補助金の復活

(3) 環境問題への取り組み強化

16年度はご迷惑をおかけした全日本大会の補助金の復活につきましては、新たに環境委員会を設置し、企業協賛を仰ぎ環境キャンペーンを展開し、当事業に賛同する艇種別協会には15年度並の補助金を交付しました。

(4) 財政基盤の確立

本件につきましては17年度は調査、研究の年と位置づけ、組織改革を含む長期対策、賛助会員増強等の短期対策を18年度より実行いたします。

(5) 愛地球博記念国際セーリングシリーズの実施

(6) スナイプ級世界選手権大会の実施

17年4月～9月の間、愛知県蒲郡市を中心にトヨタグループの協賛により月毎に日本ジュニアヨットクラブ競技会、ジャパンカップ等6イベントを愛知県ヨット連盟をはじめ多くの方々のご協力のもと、成功裏に終了しました。スナイプ級世界選手権大会は上記(5)の一環として8月に海陽ヨットハーバーで行われました。

(7) 小笠原レースの復活実施

16ぶりに行われた同レースは3艇のエントリーにより、ゴールデンウィークの5月3日10時小笠原諸島父島二見港をスタートし、フィニッシュラインの設けられた三浦市シーボニアマリーナ前にそれぞれ5月6日に無事にフィニッシュしました。

◆総務委員会

(委員長：中山明 副：浪川宏・安藤淳)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1、加盟団体、特別加盟団体及び会員の義務と権利の明確化	7月		(1) RRS使用の権利、レース主催の権利義務に関する問題をレース委員会と連携して、7月から暫定処置を実施したが、報告書の提出は少数であった。
	通年		(2) 特別加盟団体の加盟承認は4団体(日本視覚障害者セーリング協会、日本インクルーシブ協会、シボニアヨットクラブ、徳島ヨットクラブ)であった。休眠団体のスター協会が復活した。
2、諸規程の整備	9月		(1) 連盟文書取扱い規程に電子での外部発信取扱いを挿入し文書スタイルの統一性保持を図る。
	2月		(2) 18・19年度評議員選出を選出規程に則った選出母体で実施した。
	通年		(3) メンバー登録方法のIT化に関連して一般4年メンバーの受付を18年度から廃止を決定
3、艇種別クラス協会のMNAとしての基本的管理の再検討	2月		(4) 寄附行為の顧問定数の増加、及び連盟懲戒規程の制定を継続検討事項としている。
	11月		(1) 日本470協会とセール番号登録、艇測証明、メンバー登録などの業務委託と競技運営団体(MNA)としての管理業務委託(覚書)を締結。
4、保険制度の内容検討と加入の促進	通年		(1) 新年度メンバー登録に併せて加入促進を展開した。
	通年		(1) 新システムでのメンバー登録をIT委員会と連携し細部処理事項の改善と利用促進を図った。
5、業務合理化の推進	通年		(2) 事務処理のシステム化促進については、IT委員会と協調して対象項目の検討を行った。
	6月、3月		(1) 17年度定期表彰は功労賞2名の表彰を行い、18年度表彰者推薦依頼を案内した。又、セーリング活動を通じた社会貢献をPRする為、外部表彰の申請を行った。

<備考:反省点等>

連盟組織の円滑運営に必要な諸事項を充実させるべく、他委員会の協力的な支援を得て規程、契約内容の検討、業務合理化策の推進を図ることが出来た。事務局の事務処理効率化への取り組み、システム化は手が付けられなかった。

◆会計委員会

(委員長：鈴木保夫 副：栗原博)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
各事業の会計報告を速やかに行う	通年		ORCAJ問題が発生したため、計測事業については速やかな報告が出来なかった。
予算執行の適正な管理	通年		一部の事業については予算を上回った支出が発生した。

◆財務委員会

(委員長：石橋國雄)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
財務委員会の方針	2005年3月	S & B	山崎会長・武村事務局長mtg ①中長期目標（JSAF財務体質の恒常的強化策） ②短期目標（オリンピック募金活動の実践） * JSAF組織外を含む人材の確保とJSAF各部門との連携
特別会計の内容の把握	2005年4月	JSAF事務局	オリ特/マネージメント委員会；山田氏とmtg ①JOC ②スポーツ振興基金助成金 1) 一般従来事業 2) 重点強化事業 ③toto助成金 (上記事業に関して5月13日が交付申請の締切り)
募金活動	2005年5月～	各所	募金活動及びサポーター、アドバイザーmtg
JSAF・サポーター、アドバイザーの確保			
財務体質改善の為の改革案・立案	2006年2月～3月	JSAF事務局	JSAF財政改革会議（2/24、3/7、3/15、3/22） 昇専務理事・安藤会計担当理事・石橋財務委員長 鈴木会計委員長・武村事務局長（メンバー5名による） *3/22；山崎会長宛答申書提出

<備考:反省点等>

- ①JSAFの恒常的な財務体質改善の具体的な行動に入れなかった（長期目標）・・・財政改革会議答申が纏まり、具体的な行動に移りたい
- ②募金活動及び賛助会員の拡充が予定通りに進まなかった（短期目標）
- ③JSAF各部門との連携が出来なかった（短期目標）

◆国際委員会

(委員長：戸張房子 副：柴沼克己)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
1. ISAFミッドイヤーミーティング	5月12～16日	ストックホルム	① 大谷委員がイベント委員会、カウンシル会議に出席。 IOCがオリンピック競技種目を4年毎に見直す方針としたのを受けてセーリングスポーツの将来を確実なものにするための方策が話し合われた。 ② 2008北京オリンピックの種目別エントリー数はアテネと同じで決定。
2. ISAF総会 ORC総会	11月4～13日	シンガポール	① 山崎会長、大谷、柴沼、戸張、小林 5名が出席 ② セーリングをメディアに判りやすいスポーツにするため、特にオリンピックではTV中継のことを考えて、上位10艇が出場。得点は2倍～3倍とする。フォーマットをこれからの主要大会でテストして08年に実施する。 ③ セーリング普及のための「connect to sailing」プロジェクトを推進する。 ④ 上記を含む各委員の報告は別途提出済み。 ⑤ ORCAJ問題解決のためORC会長、ISAF副会長他主要メンバーと数回のを重ね、理解を得ると同時にORCAJ側とも話し合いを重ねた。 ⑥ 今年から山崎会長、小林昇氏がORCコンgresメンバーとなった。 ⑦ RORCハンデキャップシステムであるIRCの日本導入について、RORCと会談。 ⑧ 山崎会長が出席したことでORCとJSAFの関係を今後より強化することができた。
3. アジアセーリング連盟総会	3月24日	カタール、ドーハ	① JSAF代表として前田常務理事が出席。今後できるだけ継続して出席して頂くことで、アジアとの太いパイプができるはずである。 アジア軽視ととられないための姿勢を明確にしていく（会議にはJSAF

4. その他	7月		<p>役員を代表として送る、アジア選手権・アジア大会へトップクラス選手のエントリーが必要であり、アジアでリーガシップをとることが重要。</p> <p>② 会議報告書は別途提出済み。</p> <p>① H17.7 にISAFアジア・パシフィック会長、TPA副会長来日。山崎会長、河野副会長、前田常務理事と会談をセツト。意見交換を通して厚みのある交流を促進した。</p> <p>② 万博協賛・国際セーリングシリーズ、JSAFサマースタック・ウィーク等の国際大会成功に側面からサポートした。(選手、IJの招聘等)</p> <p>③ 観光・仕事などで来日した海外一般セーラーが日本でセーリングする機会をアツクし、草の根外交を促進。</p> <p>④ ISAF、海外レース参加ジャッジ、など人の輪が大きくなり、情報収集や意見交換が活発化してきた。</p>
--------	----	--	--

◆**広報委員会** (委員長：大山俊哉 副：柳澤康信)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1、「J-SAILING」の編集・発行	6回	J S A F	<ul style="list-style-type: none"> ●「J-SAILING」と「SAIL YOUR DREAMS」を今年度から1本化した。 ●各号32ページ、前ページカラー化した。 ●年間6回、発行した。 ●自主編集にした。
2、ホームページの充実	通年	J A S F	<ul style="list-style-type: none"> ●発送を「宅配方式」に変更し、スポンサーの配布物の同梱も可能にした。 ●ホームページの充実を図り、会員への情報提供・交流の場として拡充した。 ●JSAFとして必要な情報と、広報的に必要な情報の充実を図った。
3、報道機関に対する広報対応	通年	J S A F	<ul style="list-style-type: none"> ●報道機関の「セーリング担当者リスト」を作成し活用をした。 ●報道機関に「J-SAILING」を送付し、啓蒙を図った。
4、その他の広報活動	6月/9月	岡山 東京	<ul style="list-style-type: none"> ●岡山国体において、報道部にマスコット対応を行った。 ●「叙勲パーティー」を実施・運営を行った。

◆**事業開発委員会** (委員長：平賀威 副：桑原啓三・山口英一)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. 委託販売制度の拡大	通年		各加盟団体、特別加盟団体、水域のクラブ等への委託販売についてはごく一部の団体にとどまっている。マリナーショップ、業者への委託の体制が確立されていない。
2. イベント会場でのショップの出店	通年	現地	岡山国体、東京国際ボートショウ会場、関東ヨットマンズクラブパーティ、全日本学生等の会場での販売はほぼ計画通り実行できた。愛知万博ISSの会場は商品の質が悪く失敗であった。各団体主催のレースイベントの会場でのショップ販売は実行できなかった。主な販売実績：岡山国体(623千円)、関東YC(136千円)、全日本学生(157千円)、東京国際ボートショウ(230千円)、愛知万博ISS(281千円)
3. JSAFロゴ入り商品の開発	通年		新規開発商品は不十分、在庫商品の補充発注にとどまった。愛知万博ISSロゴ入りのポロシャツ、キャップ、ステッカー等品質が悪く失敗であった。携帯用使捨て防水ケースは失敗だった
4. ロイヤリティビジネスの検討	通年		検討のみで、実績をあげるに至ってない。
5. J-セーリングとのジョイントによるグッズの販売	通年		事業開発委員会の活動内容、2006年カレンダーの紹介をJ-Sailingに掲載したに留まっている。来年度の課題にしたい。
6. イベントの企画、開催	通年	現地	出来ていない。
7. 2005年版カレンダーの製作	通年	舵社	前年比300部減の1500部製作し、各団体に販売を委託したが約350部売れ残った。来年度は更に減らす必要あり。小型のオリジナルカレンダー開発を検討する。売上：1,614千円
8. 在庫の減額	通年		H16年期末4,554千円、H17年期末4,139千円、415千円の減額ができた。しかし愛知万博ISS関連商品485千円、携帯用使捨て防水ケース96千円が

新たに在庫増となった。エンサイン小（1,010千円）、アタッシュケース（619千円）、バージ（81千円）等が長期滞留商品。

<備考：反省点等>

取支報告			
(収入)		(支出)	
カレンダー収入	1,614千円	カレンダー製作費	1,260千円
グッズの販売	3,349千円	グッズの仕入	4,223千円
		旅費交通費	80千円
合計	4,963千円	合計	5,563千円
差引収支			600千円

◆環境委員会 (委員長：荒居達雄 副：岡田達雄)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
愛・地球博記念 国際セーリングシリーズ	4月4日～ 9月25日	愛知県蒲郡市	5国際レース 2親善レース 子ども体験イベント 「環境シンポジウム」7月18日 テーマ：次世代へ語り継ぎたい環境 基調講演：プロスキーヤー三浦雄一郎 パネルディスカッション
JSAF環境キャンペーン	7月～11月	日本各地	各種レース会場で、JSAF環境フラッグと環境スローガンを掲げるとともに帆走指示書に、会場でゴミを捨てることを禁ずることを明記し、参加艇に環境キャンペーンステッカーを貼って、環境意識の向上に努めた。 (環境キャンペーン賛同レースは別紙参考資料あり)

<備考：反省点等>

愛・地球博の一環として一般参加型イベントを開催した結果、多くの参加者にアピールできた。
次年度は、海上浮遊ゴミの収集などの活動に結び付けたい。

◆レース統括委員会 (委員長：名方俊介 副：市原恭夫・大原博実)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. レースオフィサー認定、 および更新講習会の開催	平成17年4月 ～平成18年3月	関西（西宮市） 関西（西宮市） 九州（別府、唐津）	① 平成18年2月、関西（西宮市）において、ナショナル・レースオフィサー認定（試験）および更新講習会を開催した。 ② 関西（西宮市）、九州（別府市、唐津市）において、エリア・レースオフィサー認定講習会を開催した。 ③ 上記の結果、レースオフィサー資格取得者数は、NR081名、AR0236名、CRO16名である（平成18年3月6日現在・新規合格者は含まず）。
2. レースオフィサー・トレーニング・キット (レベル1および2)の充実			① 昨年度のルール改正に伴う、レースオフィサー・トレーニング・キットの改正を行った。 ② 前年に引き続き、岡山国体におけるレース運営から視覚素材を採得し、NRO・ARO認定講習会における教材として用いるレースオフィサー・トレーニング・キット（レベル1および2）を充実させた。
3. 公認等審査部会の設置			レースマネジメント委員長を部会長とする公認等審査部会を設置して、実施される大会の組織やレース公示に対する指導・支援を充実させる審査制度を構築した。
4. RO連絡網の整備			レースオフィサー連絡網を用いて、レース運営に関する情報を適時に発信し、全国のレース運営の平準化と知識向上の一助として活用している。
5. その他			岡山国体、兵庫国体リハサル大会、ユース・チャンピオンシップ、オリンピック・ウィーク、ナショナルチーム選考レース、全日本チームレース等の支援を行った。

<備考：反省点等>

平成16年4月1日より全日本選手権大会等にはレースオフィサー設置義務が発行している。
今後、外洋系レースオフィサー特別講習会の早期実施、レースオフィサー制度の維持管理、競技大会へのRO起用のためのHPの整備を行う。
さらに、公認等審査部会を強化し、レース公示に対する指導を通じてレースマネジメントの標準化を推進する。

◆ルール委員会 (委員長：川北 達也 副：大村 雅一)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
1. ルール解説資料作成			
・国体ケース集	12月	-	ルール改定に伴い、会員へのルール理解の普及。
・NT用ルール勉強会資料作成	1月-2月	東京	選手や指導者、ジャッジ/アンパイアに展開。 NTチームに対する勉強会で展開。
2. ルール関連書邦訳発行			
・CaseBook	9月	-	CaseBook/CallBookは、RRSの正式解釈として発行されるため、ルールブックと同じレベルの価値。マニュアルはジャッジ/アンパイアのレベル統一のために必須。 翻訳作業実施。発行準備が遅れ、発行に至らず。18年度7月を目処に早期発行を予定。
・マッチレースCallBook	6月発行	-	マッチレースクリニックやNU更新講習会で使用。
・チームレースCallBook	-	-	発行準備が遅れ、発行に至らず。18年度7月を目処に早期発行を予定。
・アンパイアマニュアル	6月発行	-	マッチレースクリニックやNU更新講習会で使用。
・ジャッジマニュアル	-	-	ISAF改定版発行が遅れ、18年度に発行予定。
・ISAF規定	2月	-	翻訳作業実施。発行準備が遅れ、発行に至らず。 18年度5月を目処に早期発行を予定。
・ISAF Q&A	12月	-	1月にISAFの期限切れに伴い、発行を待機中。18年度には発行予定。
3. 国内IU/IJ育成支援、アジア地区 ジャッジアンパイア養成支援			
・IUセミナー開催	4月	佐島マリーナ	最大3名になっていた国内のIUは1名に減少した。IJも全て試験制度に切り替わり、減少中。また、IJ平均年齢も60歳を越えている。今後のために若手の資格要件保持者を育成する。 IUセミナー参加者は日本国内の4名のみの受講であったが、筆記試験合格者3名を実現。そのうち1名はIU合格。
・A級ジャッジセミナー	2月18-19日	五反田TOC会議室	24名参加。ルールに関わる再審事項などを講義した。上告の増加を踏まえて、判決に当たったの事実認定、適用規則判決文などの書き方などの練習を行なった。
・IJ/IU推薦	7月15日	帝国ホテル	IJ1名、IU1名の推薦申請があり、IJ1名およびIU1名の推薦を審議の結果、双方共に推薦を決定した。
(ISAF Mr. John Doerrより問い合わせ)	11月7日	-	シンガポールのISAF総会に参加しているMr. John Doerrより川北委員長に電話でIJ推薦に関するJSAF手続が満足されていない、との連絡が入った。 IJ/IU推薦規定にある2/3以上の賛成が得られていないため推薦を取り下げた。
・IJ/IU推薦再審	2月16日	東京ステーションホテル	IJ1名の推薦を審議の結果、2/3の賛成を得られず推薦を却下した。
4. 各種ルール講習会開催			
・ナショナルアンパイア認定	-	-	未実施。18年度実施予定。
・ナショナルアンパイア更新	5/25, 6/18 7/30, 8/27	葉山・西ノ宮	4回23名参加。MAX60名いたNUが約40名に減少。
・A級ナショナルジャッジ認定	6/25-26, 1/28-29, 3/3-4	広島・佐賀・東京	計29名が受験し、8名が合格した。
・A級ナショナルジャッジ更新	3/25, 3/26	東京	最終の講習会として設定したが、応募者なく、中止
・B級ジャッジ試験問題			各加盟団体が実施する認定講習会に作成した試験問題雛形を提供
5. ジャッジ・アンパイア認定			
・A級ナショナルジャッジ	都度	JSAFオフィス	更新および新規認定されたジャッジの認定証を発行。 発行件数は、309件。保留が6件。
・B級ナショナルジャッジ	都度	JSAFオフィス	更新および新規認定されたジャッジの認定証を発行。 発行件数は、670件。保留が1件。
・ナショナルアンパイア	都度	JSAFオフィス	更新されたジャッジの認定証を発行。発行件数は、26件。保留が15件
6. 外洋レースに関するルール展開			
・帆走指示書・レース公示記載	都度	小笠原レースなど	外洋レース主催者に対する記載すべき内容のアドバイスを実施
・海上衝突予防法適用方法	都度	小笠原レースなど	検討し、各大会への展開を図った。
7. JSAF-Webへのルール情報展開	都度	-	
8. ルール委員会の開催	7月・12月	東京	2回の開催。情報共有および発行予定の内容についての検討合意をした。 参加は総計38名。

<備考:反省点等>

- ・今回の反省も踏まえ、IJ/IU推薦委員会規則を変更した。
- ・JSAF 4年メンバー新規登録廃止に伴い、ナショナルジャッジ・ナショナルアンパイア規定を変更した。

◆ワンデザインクラス計測委員会 (委員長代行: 末木創造)

事業は行っていません。

◆競技力向上委員会 (委員長: 箱守康之 副: 山田・松山・斉藤・青山)

◆オリンピック特別委員会 (委員長: 河野博文)

平成17年度はアテネオリンピックに於ける関・轟組の銅メダル獲得の効果で補助金支給団体からの選手強化費も増額されました。

特に、JOCの推薦でスポーツ振興基金より「重点強化種目」に認定され別枠の補助が受けられる事となりました。

オリンピック特別委員会はアテネ大会終了後、組織の充実と以下の重点目標を掲げ、17年度はまず国内強化活動の充実からスタートいたしました。

*オリ特組織、業務の詳細はH/Pをご覧ください。また、重点目標4.の「次世代を担う選手の育成・強化」については競技力向上委員会と密接な連携を保って推進してまいりました。

【重点目標】

1. 北京五輪でのメダル獲得と複数種目の入賞
2. アジア大会(2006年12月カタール)のオリンピッククラス全種目金メダルの獲得
3. 選手が強化活動をスムーズに行える環境の整備と体制造り
4. JOCゴールドプランに基づく次世代を狙う選手の育成・強化
5. 事業別予算・実績管理の徹底と効率的な資金計画・運用

I. 実施事業

1. 国内強化合宿

(1) 470級

- ・第1回ナショナルチーム強化合宿 4月26日～30日 福岡県小戸
- ・第2回 々 5月25日～29日 静岡県御前崎
- ・第3回 々 6月21日～26日 々
- ・第4回 々 11月19日～21日 和歌山県和歌山マリーナ

*なお、第2回、第3回合宿には470ジュニアワールドおよび第23回ユニバーシアード代表選手も参加いたしました。

(2) レーザー級、レーザーラジアル級

- ・第1回両級ナショナルチーム合同強化合宿 6月7日～12日 神奈川県逗子
- ・第2回 々 7月6日～10日 静岡県御前崎

*なお、第1回合宿にはワールドユース代表選手代表選手および第23回ユニバーシアード代表選手が第2回合宿には第23回ユニバーシアード代表選手が参加いたしました。

- ・レーザー級海外コーチ招聘合宿 8月15日～21日 兵庫県芦屋
スウェーデンからアテネオリンピック6位のカールスネソン氏を招聘、9月世界選手権参加選手の強化を行いました。

- ・レーザーラジアル級ナショナルチーム強化合宿 10月13日～18日 静岡県御前崎

(3) RS: X級

- ・ナショナルチーム強化合宿 11月21日～24日 愛知県蒲郡

(4) 49er級

- ・ナショナルチーム強化合宿 2月22日～26日 神奈川県江ノ島

(5) 海外選手招聘ナショナルチーム強化合宿 10月13日～18日 神奈川県江ノ島

- 470級ベルチャー・ベレンス組(05年世界選手権4位)
- 49er級クリステン・アンデルセン組(05年世界選手権8位)を招聘し強化合宿を行いました。

(6) JISS(国立スポーツ科学センター)合宿

2006年度ナショナルチーム選手42名を対象にTSCチェックの強化合宿を1月30日～31日、2月27日～3月1日、3月13日～14日の3グループに分けて実施しました。

(7) ユースナショナルチーム候補強化合宿

西日本地区合宿 3月9日～12日 佐賀県唐津

東日本地区合宿 3月21日～24日 静岡県浜名湖

2. 競技会開催

(1) ISAFワールドユース代表選考会 4月30日～5月3日 佐賀県唐津

(2) 第23回ユニバーシアードおよび470ジュニア選手権代表選手選考

470級とレーザー級については東西でまたラジアル級とミストラル級については、既存の大会で日本代表選手を選考しました。

(1) JOCジュニアオリンピックカップ2005 10月8日～10日 佐賀県唐津

兼JSAFユースセーリングチャンピオンシップ

(2) オリンピックウィーク2005 10月19日～23日 神奈川県江ノ島

(3) 2006年度ナショナルチーム選考レース

470級、レーザー級 12月13日～18日 神奈川県江ノ島

ラジアル級、49er級、RS:X級 2月22日～26日 々

1. 海外派遣

(1) ISAFワールドユース選手権大会 7月14日～23日 韓国・釜山

・国別順位 (Nations Cup) 46ヶ国中 17位

(2) イングリング級世界選手権大会 7月15日～23日 オーストリア・モンデシー

重 (玄海セーリングクラブ)、堀内 (飛鳥建設)、渡辺 (富士ビューア) 組

34艇20ヶ国参加 総合20位国別13位

*イングリリングはナショナルチームではなく補助対象外ですが、ヨーロッパ内移動のためにトヨタ支援の車両のサポートを行ないました

(3) 470級ジュニアワールド選手権大会 7月25日～8月2日 ロシア・サクトペテルズブルグ

(4) 第23回ユニバーシアード大会

・国別順位 28ヶ国中 4位

(5) 2005年470級世界選手権大会 8月19日～28日 米国・サンフランシスコ

<男子> 64艇25ヶ国参加

<女子> 34艇参加

(6) 2005年49er級世界選手権大会 8月25日～9月6日 ロシア・モスクワ

轟・高橋 (関東自動車工業)

66艇22ヶ国参加 総合41位国別16位 シルバーフリート

(7) 2005年レーザー級世界選手権大会 9月18日～28日 ブラジル・フォルタレザ

1 36艇38ヶ国参加

(8) 2005年レーザーラジアル級世界選手権大会 12月2日～9日 ブラジル・フォルタレザ

76艇32ヶ国参加

(9) セールメルボルン 2006年1月9日～14日 オーストラリア・メルボルン

(10) RS:X級コーチ派遣

9月28日よりスペイン・カジスで開催されたRS:X級カジスレースおよび同クラス国際会議に出席、情報収集を行なうためにウィンドサーフィン級

担当コーチ前地達郎氏を派遣しました。

(11) アジア選手権派遣

2006年12月開催予定のカタール・ドーハで開催の第12回アジア選手権大会に3月14日～28日まで役員2名、選手9名 (OP級男子2名、女子2名、420級男子2名、女子2名、ミストラル級男子1名) を派遣しています。

2. 中国調査

9月5日～10日にかけて2006年470級世界選手権大会開催地である日照およびオリンピック会場の青島事前調査に山田敏雄、斉藤愛子、中村健次の3名を派遣、セーリング競技組織委員会での情報収集およびレース海面調査を行いました。

3. コーチ会議の開催

10月19日江ノ島女性センターでコーチ会議を開催しました。本会議はコーチだけではなく選手の参加も可とし、青島調査の報告、2006年度計画概要、オリンピック最終選考について意見交換を行いました。

4. ナショナルチームランキングシステムの公示

2005年7月1日に初めての試みであるナショナルチームランキングシステムを制定し公示しました。これは2005年、ナショナルチーム選手等を対象に2005年度世界選手権大会の成績で、2006年度事業における艇種別ランキングを明確にし、それを基に強化費およびその他の補助の算定基準とし、選手強化を図ることを目的としたランキングの算定を実施しました。今後、より良い制度に改め北京オリンピック直前の世界選手権大会まで継続して行きます。

5. 北京オリンピック最終選考 の公示

平成17年1月21日(土)開催のJSAF理事会において承認を受け公示いたしました。

6. ナショナルチーム規定の制定

ナショナルチーム選手の権利と義務を定めたナショナルチーム規定を制定しました。

7. オリ特ホームページ

オリ特ホームページを立上げ、合宿公示、レース等の公示、ランキングシステム、選手への通達等を掲載いたしました。

※ 別 添 資 料 参 照 ※

◆指導者委員会 (委員長：棚橋善克 副：小山泰彦・斉藤威)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
バッジテストの実施	通年	全国(加盟団体)	認定実績 68団体 1,167人
バッジテストのありかた検討	9-1月	東京	バッジテストの改良にむけ、検討を行った。次年度は、各水域から委員をつのり、検討を加速させる。
安全・救助ビデオの立案	7-10月	東京	観天望気、沈起し、救助法など、ディングーセイラーおよび指導者のための安全・救助ビデオを立案した。次年度は、実際の撮影、販売を企画する。
教育機関における指導員の養成	通年	広島	日本海技専門校5人
アシスタント指導員の認定	通年	広島、東京	日本海技専門校5人、東京都連1人
指導者全国会議	1/14、15	東京都夢の島マリナ	34都道府県、0外洋、18団体 96人 参加者の意見を最大限生かせるよう、パネル形式のセッションも設けた。次年度は、さらにこの形式を発展させる。
講習会講師研修会	3/21、22	静岡県浜松市三ヶ日	指導者講師研修 12県連17人参加 ユースナショナルチームにおけるコーチングを視察研修するとともに、指導者マニュアルの紹介、気象、栄養の講習を行った。

<備考:反省点等>

- バッジテストについては、学科問題、実技試験の内容を再検討して行きたい。
- 安全・救助のビデオや指導者マニュアルを作成し、講習会を開催するなど指導者の育成に努めていきたい。
- 新たな制度のもとで、公認指導員の養成と認定を進めていきたい。

◆レディース委員会 (委員長：倭千鶴子 副：長田美香子・松原宏之)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
第5回エンジョイセーリングデイ	平成17年7月30日	神奈川県葉山町葉山マリナ	別紙参考資料あり
第60回晴れの国岡山国体チャイルドルーム	平成17年9月9日～ 13日	岡山県牛窓町	別紙参考資料あり
第61回野のじきく国体リハーサル大会	平成17年10月7日～ 10日	兵庫県西宮	別紙参考資料あり

<備考:反省点等>

チャイルドルームの設置場所は選手に直結している場所が最適である。尚チャイルドルームのお手伝いは出来ることなら女性のみの方が適切である。エンジョイセーリングデイの参加者をセーリング連盟の会員になってもらうよう方法を具体的に考慮。

◆医事・科学委員会 (委員長：上原一之 副：栗原茂勝 米山博巳)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
------	----	----	----------------------

ドーピング検査員派遣	10月22日	江ノ島	実習中検査員5名で選手5名の検査実施
レース海面にて救護活動	5月3-5日	山中湖	
	8月4-6日	蒲郡	
	8月24-26日	野尻湖	
ナショナルチーム海外携行薬の手配 アンチドーピングに関する相談受付			

外洋統括委員会

(委員長 富田稔：4～12月、古川保夫：1～3月)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
ハンディキャップ・計測委員会	年間		I M S計測業務と証書発行・登録をした。
法規委員会	10月	J C I会議室	ORC-C l u bレーティングの計測業務と証書発行・登録をした。 日本ORC協会（ORCAN）設立に関し、ボードメンバーとして参画した。 小型船舶検査機構との定期会合を開催し、安全備品の規格、国際的 話題などについて意見交換を行うとともに、ユーザーとしての要求 について申し入れを行った。
技術委員会	年間		船舶安全法の航行区域とISOについて検討した。
安全・通信委員会	年間		外洋艇の安全規定である特別規定の改善に向けてI S A F S R委員会 に提言を送るとともに変更部分に対し国内徹底に迅速に対応する。 ORC-SRの翻訳版（J S A F - S R）を着手した。 国土交通省の提言する沿海範囲の安全通信情報システムの、システ ム要件作りにユーザー代表として参加した。
レースマネジメント委員会	年間		NORC時代から保有しているHF海岸無線局の廃止を検討した。
	9月	蒲郡市	外洋チャンピオンシップレースにおけるレース主催者について検討した。 愛・地球博事業の全日本外洋ヨット選手権（ジャパンカップ）に参画した。

■特命チーム■

◆普及委員会

(委員長：水谷益彦 副：稲葉文則・清水昭・棚橋善克)

事業内容	時期	場所	成果の概要（次年度への反映事項を含む）
日本財団助成事業を全国加盟団体に 委嘱することによりセーリングの 普及を図る			
(1) ファミリーレース	5月21, 22日	愛媛県松山市沖	広島県連実施
	6月4, 5日	千葉県稲毛	千葉県連
	7月16, 17日	北海道紋別市	北海道連
	7月23, 24日	静岡県静岡市	外洋駿河湾
	8月12, 13日	静岡県浜松市	静岡県連
	8月13, 14日	青森県合浦	青森県連
	9月17, 18日	大分県杵築市	大分県連
	9月24, 25日	滋賀県大津市	外洋近北
	10月22, 23日	大阪府二色	大阪府連
(2) ジュニアセーリング体験	6月4, 5日	京都府宮津	京都府連
	7月17, 18日	宮城県名取市	宮城県連
	7月23, 24日	福岡県小戸	福岡県連
	7月23, 24日	愛媛県松山市	愛媛県連
	8月27, 28日	佐賀県唐津市	佐賀県連
(3) 障害者セーリング体験	7月17, 18日	北海道石狩市	北海道連
(4) 教職員指導者セーリング講習会	7月5, 6日	福岡県小戸	福岡県連
	7月23, 24日	宮城県名取市	宮城県連
	8月5, 6日	三重県伊勢市	三重県連
(5) 安全講習会			指導者委員会より報告

◆関係組織協力委員会 (委員長：大庭秀夫 副：前田多満枝)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1、愛知万博に伴う会長及び副会長の参加。	3月25日～ 9月25日	愛知県	4月4日～9日までの『フォーミュラ・オープン・サーフィン級アジア選手権大会』を皮切りに、5月に『セリング・スピリット級』6月に『J-24セリング・クリニック』7月に『スライプ 級世界選手権』8月に日本シニアヨットクラブ 競技会9月に『デニス・コナ・カップ』、『ジャパソカップ』その他子供セリング、環境シボジウム 体験乗船などの開催に協力した。
2、アビームカップ 開催にあたり調整	3月16日～ 3月21日	神奈川県	オーストラリア、イタリア、中国、アメリカ、フランス、日本の6カ国11艇の参加で神奈川県の横須賀佐島マリーナで開催した。
3、470協会との業務委託覚書締結	通年		業務委託覚書締結
4、ワンデザイン計測委員会準備	通年		委員会発足

◆IT委員会 (委員長：前田彰一 副：鈴木保夫)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
第19回IT委員会	2005年6月1日	JSAF	JSAFメンバー登録システム現状分析 情報環境デザイン社と登録データの業務委託契約/個人データ取扱い確認 JSAF 個人情報保護方針の検討
JSAF Webに新メンバー登録	6月10日		JSAFホームページにメンバー登録システムを掲載
J-Sailingへの掲載原稿	6月17日		J-Sailing(7/未発行)にメンバー登録システムの解説を掲載
第20回IT委員会	9月7日	JSAF	登録システムの問題点と解決方法の検討-1 登録システムの来年度メンバー確認方法の討議
ヤマトロジスティックと打合せ	10月27日	JSAF	来期J-Sailing発送に会員シール添付の検討依頼
第21回IT委員会	11月10日	JSAF	登録システムの問題点と解決方法の検討-2
セコムパスポート更新	11月24日		セキュリティに関するセコムパスポートを更新
第22回IT委員会	2006年1月12日	JSAF	登録システムの問題点と解決方法の検討-3 来期に向けたシステム改正点の討議
全国安全指導講習会で報告	1月14日	夢の島マリーナ	登録システム活用に関するFAQにより現状と問題点を報告
加盟団体担当者あてにFAQ送信	1月31日		登録システム活用に関するFAQを加盟団体の担当者あてに送信
通常(第2回)理事会	2月18日	夢の島マリーナ	中山総務委員長と相談の結果、来期より4年制メンバーの廃止
加盟団体担当者ID/パスワード更新	2月28日		登録システムの亀井担当者あてIDとパスワードの変更を送信
第23回IT委員会	3月15日	JSAF	登録システム改正の討議と内容決定 情報環境デザイン社へシステム改正の見積依頼
委員会 全国代表者連絡会議	3月18日	レストラン505	登録システムの現状と来期に向けたシール送付など説明

<備考:反省点等>

- (1) 昨年度メンバー登録システムを構築し、本年度より新しい登録システムを稼働させました。従来ディンギー系と外洋系のメンバーが別々のデータファイルに保存されていましたが、これを共通のファイルに統一することができました。
- (2) 従来紙のやり取りでメンバー登録を行っており、急に新システムに切り替えることは困難で、まずはできるところから実施いたしました。最終的には、県加盟47団体と外洋加盟15団体の内の75%が、また艇種別・階層別・クラブを含む全団体の約60%が担当者を登録しています。
- (3) 新たなシステムの導入で、メンバーカードの発行が遅れたり、またシステム扱いの不備で当初4年制メンバーにJ-Sailingが送付されなかったりと、加盟団体の皆さまにはいろいろ迷惑をおかけしたことをお詫びします。
- (4) 本年度の問題点についてFAQにまとめ、各団体に配信いたしました。また本年度は、約100名のオンライン登録者がありましたが、今後も増えていくと思われます。来期に向けて、一部メンバー登録システムを改善し、よりスムーズな運営ができる対策を講じていく積りです。

◆会員増強委員会 (委員長：伊藤宏 副：野口隆司)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
登録会員数調査			加盟団体、特別加盟団体別の登録会員数を1982年に遡り、24年間分の推移を調査した。今後、各団体宛にデータを送付し、コメントをもらい、会員増強策に資する。

新会員登録キャンペーン		平成18年度の新規会員増を図るため、キャンペーンを実施することとし、プレゼントようグッズを製作した。
-------------	--	--

◆B&G海洋センター支援チーム (委員長：占部雄三 副：小松一憲)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
プールでOPヨット体験会	平成17年10月8日	茨城県玉造B&G海洋センター	海洋センター周辺の子供にヨットへの親しみと指導者の理解を深める
同上	平成17年10月15日	愛媛県大三島B&G海洋センター	初めての試みに準備・設定に時間を要したが教育関係者の理解が得られた
同上	平成17年10月29日	沖縄県本部町B&G海洋センター	極めて好評の結果で18年度は10センターを対象に実施を計画している

■特別委員会■

◆国体委員会 (委員長：昇隆夫 副：森信和)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
1. 第60回国民体育大会岡山国体を開催	9月10日～13日	岡山県牛窓ヨットハーバー	・天皇杯：静岡県 皇后杯：岡山県 成年男子470級、シングルハンダー級、成年女子SS級、SR級：5レース実施 成年男子・女子ウインド、少年男子・女子FJ級、SR級：4レース実施
2. 兵庫国体リハーサル大会を開催	10月7日～10日	兵庫県 新西宮ヨットハーバー	・2005年全日本セーリング選手権大会 ・高松宮妃賜杯第51回全日本実業団ヨット選手権大会 ・第7回全日本セーリングスピリッツ選手権大会 ・環境キャンペーンを実施
3. 岡山県、兵庫県、秋田県の国体開催予定地の準備支援を実施		岡山県牛窓YH 兵庫県新西宮YH 秋田県男鹿市特設YH	・競技運営方法及び運営施設等の協議 ・レース海面の設置場所等について協議 ・競技運営棟及び配置計画について協議
4. 第66回山口国体(平成23年)開催地内定に係る中央競技団体正規視察の実施	8月26日	山口県光市	・開催地内定に伴う山口県、光市、地元県連との協議及び現地調査
・平成21年第64回新潟国体の事前視察	2月2日	新潟県聖籠町	・日体協へ正規視察報告書の提出 ・会場地変更に伴う調査を実施
5. セーリングスピリッツ級の普及活動の実施			
(1) 大会の開催			
・西日本スプリングレガッタ	3月20日～21日	岡山県牛窓YH	・岡山国体開催に合わせSS級のレースを開催
・愛・地球博記念セーリングスピリッツ級ゲームズ開催	5月1日～5日	愛知県海陽YH	・万博記念として海外選手(スペイン、韓国)を招待してSS級の普及を図る。
・SS級関西選手権	7月30日～31日	兵庫県新西宮YH	・水域による普及活動
・海陽セーリングカップ	8月13日～14日	愛知県海陽YH	・
(2) 安全対策			・マストに浮力体を導入し安全対策を実施する。 ・全国安全指導者会議及び兵庫リハーサル大会にて実験を実施
6. 国体種目(艇種)について日体協と協議		日本体育協会	・平成19年秋田国体から少年男女にSS級の採用が決定される。
7. 国体セーリング競技研修会の開催	1月27日～28日	東京都夢の島	・岡山県、兵庫県、秋田県、大分県、新潟県、千葉県の行政関係者及び各県連と国体開催に向けた研修会を実施
8. 国体ウインドサーフィン級、SS級の年度登録管理			・年度登録証の発行及び管理
9. 国体参加資格の審査			・第60回岡山国体の選手・監督の参加資格について審査を実施

<備考:反省点等>

- ・国体セーリング競技研修会は平成15年度から継続して開催し、関係行政機関及び各県連には成果が多いにあり有効な会議である。
- ・平成19年秋田国体から少年男女にSS級の採用が決定された。
- ・国体改革に合わせ中学生の参加を日体協と協議を進める。
- ・環境キャンペーンを国体及びリハーサル大会で実施する。

◆アメリカズカップ杯委員会 (委員長：山崎達光)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
第32回アメリカズカップおよび レイ・ヴィトンカップの動向調査			2007年スペインで開催される第32回アメリカズカップの前哨戦 アクトシリーズは11チームで戦われ、アクト9まで消化した。 現在のランキングは ①オラクル (USA) ②チームNZL ③ルナロッサ (ITA) 引き続き推移を見守り、日本の挑戦資料とする。

■その他の委員会■

◆最高審判委員会 (事務局長：川北達也)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
上告に対する裁決 ・全日本スナイプ選手権大会	12.12	東京ステーションホテル	選手から申請された上告書とプロテスト委員会からの意見書に基づき審議 した結果、当該プロテスト委員会に審問の再開に関する検討を指示した。
・J24ミッドウィンターレガッタ	10.11	東京ステーションホテル	選手から申請された上告書に基づき審議した結果、裁決を下すのに必要な 事実認定が不足していたため、当該プロテスト委員会に再審を指示し、 報告された事実に基づき裁定を下した。
プロテスト委員会の判決確認への裁定 ・関西学生選手権大会	10.11	東京ステーションホテル	プロテスト委員会から判決結果への確認要請に基づき審議した結果、
RRS 69.2についての裁定 ・日本OP協会からの報告	2.9 3.22	オフィス東京 かながわ女性センター	日本OP協会から提出された報告書とJSAFに調査委員会を設置し 関係者にヒアリングを行ったものに基づき、2回の審問と裁定検討を 行い、JSAFへの報告書を提出した。

◆ドーピング裁定委員会 (委員長：棚橋善克 副：秋元和子)

事業内容	時期	場所	成果の概要 (次年度への反映事項を含む)
討議すべき提訴はなかった。	通年		